

# と人生における利子の役割（1/7）：序

：

明:

代社会における利子の役割に するイスラ ム的 点と、その 史的 代的分析。第一部：なぜムスリム  
たちは、キリスト教やユダヤ教の世俗主 者らによる合法化の呼びかけにも わらず、利子の禁止を  
けるのか。

目:[事イスラ ム的システム](#)

より: ジャマ ルツ=ディ ン ザラボゾ ( 2011 IslamReligion.com)

日 7 Oct 2011

集日 17 Oct 2011

## 序



大辞泉では、利子は次のように定 されています：「金 の 借が行われた 合、その使用の  
として借り手が し手に支 う金 。」

、 人と世界全体は、おそらく上 の定 を必要としない程に、利子による 担を熟知してい  
ます。利子は 本主 国の住民であれば、 でも知っているものです。近代 において、利子  
は完全に容 制度化されているため、利子の わる取引を完全に否定 拒否する人物がいる  
ことは想像しがたい程ですが、依然として敬虔なムスリムは利子に わることを拒否し  
ています。

ムスリムが利子に ならない直接の理由は、利子がイスラ ムによって禁じられているからですが、これに しては 述します。しかし同 に、ムスリムは、神の きとは神の知 、英知、正 に基づいていると信じています。言い えると、神は何の理由もなしに、何かを人 に禁じることはないということです。それゆえ、神がこの制度を禁じたのには、か に理由があるのです。それらの一部は、私たちでも明 に することの出来るものです。

代世界において、ムスリムたちは利子を支持する によって、常に攻 に晒されています。残念ながら、多くのムスリムたちはそういった 力と「 理的 」に屈服し、利子の概念を受け入れてしまっています。

それゆえこの短い 考では、信仰 条に基づきながら、利子に するイスラ ム的立 について じていき、利子を支持する が真に正当なものかどうかを する 理的 を展 します。

## 人 に する神の き

イスラ ムでは、神がその慈悲により、人生の全ての 面に する きを全人 に授けたと教え ています。この きは崇 行 に するものだけではなく、 、商 理、婚姻 、国 、争 理などをめ、あらゆるものを含有します。在において、そのような神の きを未だに信じていることはムスリムの突出した特 ですが、世俗的 となると多くの人 は彼らの宗教的教えをおろそかにするか、あるいは て去るのです。

多くのムスリムが、例えば世俗的ユダヤ教徒やキリスト教徒たちが ったような道を踏 しないことには、いくつかの理由があります。最も重要な理由のひとつとしては、ムスリムたちが、イスラ ムの基 を 成する 示が、その 示された 代以来、全く手が加えられたたり、改 されたりしたことがなかったことに、自信を持っていることが げられます。言い えると、示には人 による干 や歪曲がなかったのです。それゆえ、世俗的ユダヤ教徒やキリスト教徒たちは を持つかもしれませんが、 を ても 去の人々の ちを修正する必要がないのです。 、ムスリムにとっての唯一の影 とは、人 の干 によって神から下された 示を 付けること以外にないのです。

次に、多くのムスリムたちは、彼らの宗教が されていること、あるいは 代において 不可能であることの 得力ある 明を、未だに 出してはいません。例えばイスラ ムにおいては、宗教と科学の が存在せず、それによって、西洋で られたような教会の信用失 や、宗教 威に する事 上の反乱につながるような出来事はなかったのです。

ムスリムを含む多くの人々は、イスラ ムに 山の 化を求めてきましたが、彼らによる は不完全かつ 弱なものでした。この 考のトピックである利子は、こういった性 の良い例 でしょう。

近年、イスラ ムはメディアでの露出が えましたが、 味深いことに多くの非ムスリムは、イスラ ムの利子に する立 を知りません。それゆえこの 考では、中世 代の古臭いトピックなどではなく、 代世界において めて重要なトピックであるこの利子 にスポットライトを当てるのです。

---

## Footnotes:

1

宗教と科学の にするヨ ロッパ人キリスト教徒の の 史における名著は、ジョン ウィリアム ドレイパによる *Conflict between Religion and Science* (Order of Thelemic Knights, 2005) (宗教と科学 の の 史) です。 は、ヨ ロッパにおける科学とキリスト教の の 史であるため、この 名は 正 しょう。彼の著作 *A History of the Intellectual Development of Europe* (Honolulu, Hawaii: University Press of the Pacific, 2002) (ヨ ロッパにおける知的 展の 史) では、同じジョン ウィリアム ドレイパ が、ヨ ロッパの 史を「信仰の 代 代」に分割し、キリスト教特有 (同 にユダヤ教) の に焦点を当てていますが、「理性」と「科学」を「宗教」と比 いることが分かります。イスラ ムはそのような を一度も しませんでした。事 、イスラ ムと近代科学との 立性は 々をイスラ ムへと招いています。例えばタイのチェンマイ大学のテジャタット テジャセン教授は、イスラ ムと近代科 性を研究し、最 的に以下のように述べました：

“ 去三年 、私は自分の研究 象としてクルア ンに 味を持ち けていました。1400年前からクルア ンに されている 柄は科学によって 明されており、それらは真 であると私は信じています。言者ムハンマドは み きができなかったが、ムハンマドは 造主に する存在によって 示されたこの真 を した使徒であることに いないのです。したがって、今こ の 点で、テジャセン教授はイスラ ムの信仰宣言をしました) と言うべきときでしょう。” I.A.イブラ ヒ *ALDEF* *Illustrated Guide to Understanding Islam* (Houston: Darussalam, 1997) 3 1 からの引用。

この著作は、

この 事のウェブアドレス:

<https://www.islamreligion.com/jp/articles/538>

著作 2006-2015 断 を禁じます。 2006 - 2023 IslamReligion.com. 断 を禁じます。